高知市市民活動サポートセンター季刊誌

えぬぴぃOh!

2015 春
Vol. 59

▶２P～3P
高知から日本の未来を変える！
　土佐志民大学　開講

▶4P～5P
地域に、人に愛される再生と共生のアートステージ
　「アートゾーン藁工倉庫」

▶6P
みんなで楽しくお得に東部観光
　ＮＰＯごめんなはり線を支援する会の活動

▶7P
生きてほしい、あなたに
　～いのちに寄り添って１６年、高知いのちの電話～

高知から日本の未来を変える！

土佐志民大学　開講

課題先進県である高知の課題を解決することは、日本の課題を解決すること。「志」の高い市民（シチズン）が集い学ぶことにより、高知から日本の未来を変えることができる。そんな市民のチカラを信じて、土佐志民大学（以下「志民大学」）が2014年10月開講した。

■はじめに

志民大学は、「高知から社会を、未来を変えるスタートアップ」と位置づけられた市民の学び場、情報共有の場であり、市民の市民による市民のための大学。

既に志を持って社会を変えつつある時代の先駆者をゲストスピーカーとして迎え、プレゼンテーションの後に参加者からの質疑応答という形式をとっている。

仕掛け人は、NPO高知市民会議（以下「市民会議」）とプロブロガーのイケダハヤトさん（以下「イケダさん」）。2014年度は、「デザインする」をキーワードに、イケダさんがモデレーター（進行役）を務め、全4回の講義が開催された。

■第1回

第1回は、2014年10月12日、「ボクらの未来をデザインする」をテーマに、連続起業家の家入一真（いえいかずまさ）さんと映画監督の安藤桃子さんをゲストに迎え、こうち男女共同参画センター「ソーレ」で開催された。

家入さんは「全てが『仕組み化』されがちな社会においては、時にそこに生きる人間、個人個人の存在が忘れられてしまっていないだろうか。地方創生は『地方をどう盛り上げるか』ではなく、『一人一人がそこでどう生きるか』といった視点が大切なのでは」、安藤さんは「現代日本は、すべてのことを単語で『一般化』することで、完結してしまっているのでは」と語った。

▲第1回：ゲストスピーカーの家入さん（右）と安藤さん（左）

■第2回

第2回は、2014年12月7日、「共感をデザインする」をテーマに、エイズ孤児支援NGO・PLAS代表の門田瑠衣子（もんだるいこ）さんとファンドレーザー（※1）の東森歩さんをゲストに迎え、高知市文化プラザ「かるぽーと」で開催された。

顧客管理ソフトを使った本格的なマーケティングについて、門田さんは具体的な数字を挙げながら「相手に合わせた情報発信によりいかに共感を集めていくかが重要。自分たちでできないことはプロボノ（※2）などを活用して専門家にお願いする。データで思いを視（み）える化し、仮説を立てながらテストマーケティングを行い事業の検証をしていくなど、周到な計画から共感者を増やしていくこと」、東森さんは、「地域性や年代層に合わせた寄付つき商品の展開からファンを増やしていくことの大切さ」を語った。

▲第2回：ゲストスピーカーの門田さんを挟んで東森さん（左）と進行役イケダさん（右）

■第3回

第3回は、2015年2月1日、「クラウド時代の働き方をデザインする」をテーマに、日本最大級のクラウドソーシングサイト（※3）を運営する株式会社クラウドワークス代表の吉田浩一郎さんと高知市副市長の中嶋重光さんをゲストに迎え、高知市保健福祉センターで開催された。

吉田さんは「時間や場所にとらわれない

▲第3回：ゲストスピーカーの吉田さん（真ん中）と中嶋さん（左）を囲んで参加者全員で記念撮影

個人の働き方が広まっている。どこかの組織に属して信用と収入を得るこれまでの働き方からインターネットを介して個人と個人、個人と企業が直接つながることでビジネスモデルが多様化している。ただ、共感を得ないと儲からないし、少しの失敗で信用がなくなることもあり、今後は、評価と教育の仕組みが必要になる」、経済産業省から出向している中嶋さんは、東京と高知での自らの日々の生活時間を比較しながら、「地方こそ、その人らしい個を活かせる働き方ができる。クラウドソーシングのようなネットを活用した多様な働き方は地方こそふさわしい」と語った。

■第4回

第4回は、2015年3月8日、「生き方をデザインする」をテーマに、NPO法人D×Pの今井紀明さんと前高知県教育長でたんぽぽ教育研究所所長の大﨑博澄さんをゲストに迎え、高知市文化プラザ「かるぽーと」で開催された。

今井さんは、「家庭環境、いじめや失敗からの挫折など様々なバックグランドを持つ若者に対して、個人や企業等からの支援を得ながら、通信制・定時制教育の総合学習の時間などで、社会とのつながりや成功体験の獲得など

▲第4回：ゲストスピーカーの今井さん（右）と大﨑さん（左）

の独自のプログラムを行うことにより、『できない』から『やってみたい』を創る教育を行っており、『一人ひとりの若者が自分の未来に希望を持てる社会』を目指したい」大﨑さんは、「今の教育では、『一人ひとりのこどもが幸せに生きていく能力』を得ることにはなりづらい。育ちの中で喜びや達成感を感じ、愛されている、大切にされていると感じられることが、自分が社会で必要とされていると感じることにつながる」と語った。

□参加者の感想

参加者アンケートでは、「地方創生を考える上で『高知の強みを活かす』ということが重要」（第1回）、「共感をつかむことの重要性を学んだ」（第2回）、「新しい働き方の可能性を感じた」（第3回）、「障害を乗り越える力をつける教育が人生をデザインすることにつながる（第4回）」という意見が多くみられた。

そして、全4回を通して「これから私も行動しよう」「新しい発見があった」などの前向きな意見や「次は子育てやファンドレイジングをテーマに講座を行ってほしい」など、今後の土佐志民大学に期待を寄せる声が数多くあった。

■主催者の思いと今後の展開

本企画は、市民会議の「これからはNPOが社会を変えると信じ、NPOに関心の薄い層に働きかけることにより、その輪を広げ新たな創造活動につなげたい」という思いとイケダさんの「ゲストの深い語りを導き、そこからキーワードを掘り起こし、参加している若者や起業家が触発され新たな活動につなげたい」という二つの強い思いがコラボした新たな試みだ。

他には真似のできない先駆的な取組は、『大人数参加型セミナー』や『少人数連続ワークショップ』に『実技セミナー』も加え、2015年度も更にパワーアップして予定されている。今後の土佐志民大学について、イケダさんは「農家の方にオクラの作り方や調理法を学ぶ、魚屋さんに魚の捌き方を学ぶなど、もっとオープン化し『市民が市民に学ぶ』プログラムにスタイル変更していきたい」と熱く語る。

志民大学は、参加者が多くの刺激を受けとることができる取組だ。未来を変えたい志を持つ人には、ぜひ足を運んで欲しい。ここに社会変革の鍵があると確信する。

（高知大学人文学部2年　野藤寛樹（のとうひろき））
（共同執筆者　森岡眞秋（もりおかまさし））

※1　ファンドレイザー：NPOや公益法人のために、資金を集める人。国内では日本ファンドレイジング協会が実施する「准認定ファンドレイザー」「認定ファンドレイザー」の資格があり、NPOなどで働く資金調達の担い手を育成、支援する民間の技能検定が設けられている。

※2　プロボノ：社会人が自らの専門知識や技能を生かして参加する社会貢献活動

※3　クラウドソーシング：不特定多数の人によって協同で進められるプロジェクトの全般を指す。最近ではインターネットを活用したサービスの趨勢の一つとして様々なサービスが世界的に発表されており、新たな受発注形態として期待されている。語源は、「crowd＝群衆」と「outsourcing＝業務委託」。広い意味では、共同でのボランティアプロジェクトなども含んでいうこともある。

[主催]イケダハヤト／認定特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議／
高知市市民活動サポートセンター

地域に、人に愛される再生と共生のアートステージ

「アートゾーン藁工倉庫」

路傍の石までデザインが施されていそうな異空間、「アートゾーン藁工倉庫」。「アートゾーン藁工倉庫」は、就労支援を中心に障がいのある人の社会におけるステージを向上させることを目指し、包括的な地域生活支援を行う“NPO法人ワークスみらい高知”が運営母体となり、高知市を拠点に演劇・映画上映・音楽・出版などを手がけるメンバーで構成される“NPO蛸蔵”と“藁工ミュージアム運営委員会”がサポートする多目的多機能型アート施設だ。

ここ高知では極めて稀有なコラボレーションであり、従来の常識にとらわれない画期的なこの集合体を紹介したい。

■「アートゾーン藁工倉庫」とは

高知市江ノ口川のほとりに建つ“藁工倉庫群”。その名のとおり、藁製品の備蓄に使われていた施設だ。

高知のまちなかでは古い建物や景観の多くが失われる中、13棟もの倉庫が建ち並ぶ藁工倉庫を歴史的建築景観のひとつとして活用を模索、「アートゾーン藁工倉庫」として2011年12月、開館に至る。

「アートゾーン藁工倉庫」は、高知の歴史を刻むこの場所で、高知のこれからを刻む文化を育む「再生と共生」のステージとすることを目的としている。また、清掃や管理業務など障がい者雇用の場の創設や、四国内に点在する倉庫を拠点とする文化施設等とも連携し、高知のみならず四国を代表するアートのステージにもなっている。

■多彩な空間

時間さえあれば終日、身を委ねていたい多彩な空間(施設)を訪ねてみたのでレポートしてみたい。

[小さな蔵の小さな美術館(藁工ミュージアム)]

小さなこの藁工ミュージアムは、障がいのある方や、専門の美術教育や文化潮流の影響を受けることなく、表現者として制作活動に取り組んでいる人々の作品を中心に調査・保存・公開する「アール・ブリュット・ミュージアム」を目指している。(※アール・ブリュットとは、直訳で“生の芸術”と言い、正規の美術教育を受けていない人や既存の芸術に影響を受けない美術品等のことを言う。)

加えて、「五感を駆使して感性を耕す」というコンセプトのもと、人間が持つ「視覚」、「聴覚」、「触覚」、「味覚」、「嗅覚」に働きかけるワークショップやレクチャーも開催している。

とてもていねいな姿勢で外構の清掃活動に汗を流すスタッフを後目に、建物内部の取材を試みたが、次回イベントの準備で大忙しの様子。いやはやなんとも実にタイミングが悪かった。それでも、突然の来訪に嫌な顔一つせず手を止め笑顔で迎えてくれた学芸員に、ぶしつけな質問「藁工ミュージアムをどう考えますか!」を投げかけた。瞬時に帰ってきた回答は、「地域に愛され、地域に開かれた美術館でありたい!」と。やられた。まっすぐな回答に心打たれる。

[自由度100%小劇場(蛸蔵)]

この日はクローズドだったが、個人的にも使用したことがあるミニシアターだ。そのときの感想を踏まえて紹介したい。とにかく自由度が高く、ストレスフリーだったのを記憶している。土佐漆喰の壁面に囲われたコンクリート土間敷きの100人規模の小さなホールで、古い蔵の意匠がほとんど残される中、アイデア次第で様々な空間を演出することができる至極使い勝手のいいシアターである。舞台演出だけでなくイベント・フォーラムなどなんでも演出可能。ぜひ思うままの空間を演出し、みなさんの市民活動をアピール、啓発してみていただきたい。もちろん会場使用料もリーズナブルだ。

えぬぴぃOh!

◀アートゾーン藁工倉庫MAP

［土佐の食材と地中海文化で勝負するレストラン（土佐バル）］

土佐の食材、地域の素材をふんだんに使い、地中海バル文化をエッセンスにしたレストランだ。取材費として落ちないかな～、無理だろうな～と言い聞かせながら、ランチをいただく。すべての料理に心が躍る。

女性スタッフに賛辞の声を投げると、さらりと「土佐の食材のすばらしさを生かしつつ、絶えず新しい試みに挑戦する自信のオリジナル料理を提供しています」と。さらに、男性客はわたし一人、他全員女性客だったので客層を訪ねてみる。「たしかに女性客が中心です。男性客は団体様に混じって来られるか、アベックとして訪れるようですね。でもお客さんのようにお一人の男性客も皆無ではありません。気軽にいらしてくださいね」と、うれしいことを言ってくれる。鼻の下がすっかり伸び、あっけなく土佐バルファンになる。

ついでにもうひとつ、リピーターについて聞いてみる。「とても多いですよ」。うんうん、そうだろうな～。

［グラフィティ（ギャラリー）］

一言でいうと、とにかく楽しく、新しい発見とワクワク感と驚きを与えてくれる空間だ。『高知の意欲あるアーティストの発表の場として、アーティストたちとお客様のコミュニケーションの場でありたい』、『生活にアートを取り入れて楽しんでほしい。アートをもっと気軽に、身近に感じてほしい。ぜひ作品発表の場として、アートと触れあう場としたい』をコンセプトにしており、文化やアートの香りからは至極遠いところにいるわたしですら、心が揺り動かされる。

ここもまた、ぜひ訪れてほしい。

［ナンバー（ヘアサロン）］

ホームページで下調べしていたのだが、なぜかたどり着くことができなかった。どうやらスキンヘッドのわたしには無縁のステージなのだろう、と納得。ということで、ホームページからそのまま引用する。

テーマは簡素の美、『シンプルの中にもインパクトを！』。お客様一人ひとりに似合ったヘアースタイルと、『何か良い』と思ってもらえるデザインを提案、カットの時間を楽しんでいただくことをコンセプトにしている。

■地域に寄りそい人に寄りそう藁工の本質

伝統的倉庫群を甦らせ、土佐の素材をスパイスに、土佐気質をブレンドし、ちっくと異文化を放り入れ、古さと新しさを兼ね備えた手法としくみを以て、過去と今と次世代を担う高知人と先人たちの文化を昇華させ、そして創造する、これが“藁工”なんだな～と、勝手に自分の中で答えをみつける。

“藁工”とみんなから親しく呼ばれ、地についた華やかさと洗練されたセンスに、高知のみならず四国のアートステージとして華やかな脚光を浴びるが、根底にあるのは“地域に寄りそい、地域と歩む中、人をつくり、人を生かし、人を創造する”懐の深いステージ、それこそが「アートゾーン藁工倉庫」の本質ではないだろうか。

■さいごに

まだ行ったことのない方、ぜひ訪れていただきたい。新進気鋭のデザインやセンス、そしてスタッフの心あるおもてなしに包まれながら、商業性を凌駕する市民活動団体運営ならではの醍醐味が味わえるだろう。

さいごに、アポなしにぶらりと訪れたにもかかわらず、笑顔で対応していただいたすべてのスタッフに感謝。

（しのみや）

※一部、ART ZONE WARAKOH SOKO ホームページ内文章を引用。
ART ZONE WARAKOH SOKO→http://warakoh.com/museum
左上の「アートゾーン藁工倉庫MAP」は「ART ZONE WARAKOH SOKO」H.Pより

えぬぴーOh!

みんなで楽しくお得に東部観光

NPOごめんなはり線を支援する会の活動

この4月から観光キャンペーン「高知家・まるごと東部博」が開催されることとなり、県東部への観光に関心が集まっている。県東部へのアクセスや開催地域内の移動は「ごめん・なはり線」が要となるだろう。

沿線の有志が中心となって組織する「NPOごめんなはり線を支援する会」は、この鉄道のPRや沿線地域の活性化を目指して、さまざまな活動を行っている。

■時刻表と沿線情報がドッキング

この会で発行する時刻表冊子付き「ゴトマガ」は、時刻表だけではなく、各駅情報や沿線地域の観光情報、おすすめ旅コースなどの特集記事やコラムまで収録されており、ポケットサイズながら約80ページのボリューム。観光客だけでなく地元住民のプチ旅のプランニングにも役立つよう工夫されている。

この冊子は、毎年ダイヤ改正される3月に約2万部発行され、沿線有人駅や観光施設をはじめ、市町村役場、道の駅・観光施設などで配布されている。

▲時刻表冊子ゴトマガ
2015年版

■「ごめんなはり線友の会」の運営など

ごめんなはり線のファンクラブ「ごめんなはり線友の会」の運営もこの会の中心的な活動のひとつである。

沿線の旬の情報を発信する会報誌「ごめんな」やメールマガジンの発行、沿線の協力店舗・施設の割引特典付き会員証の発行、ごめんなはり線オリジナルグッズのプレゼントのほか、土佐くろしお鉄道提供による特別招待券を発行する。この招待券はごめんなはり線全区間が一日乗り降り自由となるもので、会員証の特典と組み合わせることで沿線地域をよりお得に周れるという、東部博を訪れるのにぴったりの特典でもある。

こういった制度で約600名の会員と35の特典協力店舗・施設を集めている。

その他、11月の「ゆず列車」や12月の「クリスマスイルミネーション列車」などの室内装飾、イベント列車の運行、講演会の開催、ごめんなはり線キャラクターグッズの制作・販売など、幅広い活動で利用者・支援者を集めている。

▲ごめんなはり線友の会会員証。
会期は1～12月の1年間で会費2,000円

■楽しくお得に利用して地域も元気に

「日本最後のローカル新線」として開通したごめんなはり線。日本中のローカル線の例に漏れず小規模で採算性が低い路線であるが、いつまでも元気に走り続けるためには、沿線住民の日常的な利用はもちろんのこと、多くの観光客を集め利用してもらうことが必要であり、また観光客に訪れてもらうためには、更なる地域資源の発掘、広報、連携が必要となってくる。

この会が行うさまざまな活動は、乗客・鉄道・地域の交流を生み、いまや県東部の活性化になくてはならないものとなっている。今年は、会報誌やメールマガジンで「高知家・まるごと東部博」を応援し、情報をピックアップして紹介する予定だそうです。

みなさんもごめんなはり線友の会に入会して、楽しくお得にごめんなはり線を利用して、「高知家・まるごと東部博」に訪れてみてはいかがだろうか？鉄道で出会う縁もあるかもしれない。

（横田）

▲イベント列車の1つ「サントリープレミアムサンセットバー2014」の様子

お問い合わせ：NPOごめんなはり線を支援する会事務局
（株式会社アークデザイン研究所内）
TEL:088-834-1313

えぬひい Oh!

生きてほしい、あなたに

～いのちに寄り添って１６年、高知いのちの電話～

みんなちがってみんないい。
～金子みすゞさんのうれしいまなざし～

認定ＮＰＯ法人「高知いのちの電話協会」（以下高知いのちの電話）が厚生労働省の補助事業として、平成27年２月８日(日)午後１時30分から高新ＲＫＣホールで公開講座を開催した。講師は金子みすゞ記念館（山口県長門市）館長矢崎節夫さん。言葉には心が見える。みすゞさんの詩を通して、まなざしを「私とあなた」から「あなたと私」に変えることで、生かされている喜び、まるごと認め、この世のすべてと共に生きる喜びと出会う。あなたはあなたでいい、痛み苦しみにこだまして、分かろうと寄り添ってほしい。これからがこれまでを決めると話された。

▲白板を使って、「『私とあなた』は自分中心の考え方、まなざしを『あなたと私』に変えよう」と、精力的に話す矢崎館長

■電話相談「高知いのちの電話」

高知いのちの電話は、１９９９年２月日本で41番目の「いのちの電話」として活動をスタートさせた。以来16年、日曜祝日を含む毎日、午前９時から午後９時まで、また毎月10日はフリーダイヤルで24時間、一月約１４００件の相談を受ける。

「ああ、やっとつながった」「寂しくて…」「ひきこもりで…」「生きていても仕方ない…」、時には「死にたい」等々。電話を通して、孤独の中で助けと励ましを求める人たち一人ひとりの気持ちに寄り添い、心を通わせる対話をしてきた。

■支えるのはボランティア

平成27年１月現在約１４０名の相談員のうち実際に相談を受けているのは約１００名。相談員は、年齢も思いも様々であるが、一年間の養成講座でカウンセリングの技法、心の病、家族の問題、「ボランティアの心」や「自殺について」等学び、修了後認定される。

認定された後も、活動を続けながら、特別講義や研修で研鑽を重ねつつ、相談員はボランティアで電話の向こうの声に応じている。

■慢性的に不足する相談員

相談員は、相談者の話の内容は勿論、顔の見えない相手の声のトーンからその背景にも思いをはせながら、守秘義務と匿名性を貫いて、ひたすら聴く。聴くことで、多くの相談者から「聞いてもらって楽になった」などと感謝される一方、「電話がちっともつながらん」という苦情もある。

事務局長の岡上裕（おかのうえひろし）さんは、「対応する相談員がいつもいる体制にして『空白時間』をなくすことが必要。エリアでカバーし合える共通ダイヤルにより24時間体制を維持していこうという動きもあるが、家庭の事情などで退会者が多く慢性的に不足している相談員の育成が急がれる」と話す。

▲2013年7月の夏季特別講義風景

■これからも心に寄り添って

全国のいのちの電話では、厚生労働省の補助をうけ、各地で独自性を出した公開講座を開催し、自殺予防の啓発や活動への理解をと訴える。

高知いのちの電話の公開講座は今年で三回目。金子みすゞさんの詩から、いのちの大切さや生かされていることの喜び、すべてのものと共に生きることやまなざしを変える喜びを感じてほしい。

そして、相談員は電話の向こうの相談者の心の声を受け止め、「生きてほしい」と、これからも相談者の心、いのちに寄り添っていこうとしているのです。

（のむら）

認定NPO法人「高知いのちの電話協会」相談電話番号：088-824-6300
毎月10日は、フリーダイヤル：0120-738-556（朝8:00～翌朝8:00）

高知市の自慢クイズ

高知に住んでいても意外と知らない高知の自慢をクイズにしました。

問 1

高知市で開催されており、300年以上の歴史を持ち、
総延長1.3キロメートルと国内最大規模の露天市は？

問 2

日本最古の路面電車として
今日も元気に走り続ける電鉄の名前は？

問 3

全国に坂本龍馬像は数多く存在するが
総高13.5mと最も大きな龍馬像がある場所は？

問 4

高知市で栽培されている高濃度トマト
(フルーツトマト)の先駆け的存在となった
トマトの名前は？

つぶやき

#編集スタッフの

発行　高知市市民活動サポートセンター
企画編集　認定特定非営利活動法人
NPO高知市民会議　広報部会

〒780-0862　高知市鷹匠町2丁目1-43　高知市たかじょう庁舎2階
月～金／10:00～21:00　土／10:00～18:00(日･祝日は休み)
TEL：088-820-1540　FAX：088-820-1665
E-Mail：npokochi@siminkaigi.com
WEB：http://www.kochi-saposen.net/

この冊子は再生紙を使用しています

@青木
店先に並んだ文旦を岩手県在住の親戚達に贈った。「ポンタンありがとう」「ポンカン美味しかった」最後まで正解なし。頑張れ文旦！

@岡村
就職、転職、退職と家族それぞれ新生活がスタートする今年の春。生活リズムが変わることは不安ですが、変革の時期なのかもしれません。

@岩貞
孫がお喋りをするようになってきた。何て呼んでもらおうかな？直球で「おばあちゃん」か、変化球で「〇〇ちゃん」か、思案中。

@たまき
ここに来て、人生が揺れてぶれて滲みまくりです。どうなるのこれから。さしあたって目の前の事をコツコツこなす所存。

@おおの
先日、ご飯作ろうと思い、迷わず卵を三角コーナーに割るという暴挙に。どうしたんだ、私(°д°)としばらく放心状態でした。笑

@藤田
大学生活を高知で過ごせて本当に良かった。生まれ育った場所だけが「ふるさと」ではないことを感じさせてくれたすべてに感謝。

表紙・編集デザイン　国際デザイン・ビューティカレッジ　政影成良（まさかげせいら）　松本稔里（まつもとみのり）
タイトルロゴデザイン　国際デザイン・ビューティカレッジ　西森美和　前野さくら

答え：1. 日曜市 2. とさでん交通株式会社 3. 桂浜 4. 徳谷トマト